

良識ある保守主義・情報公開

# 吉田つとむ

町田市議会議員 (4期連続トップ当選)

〒194-0011 町田市  
成瀬が丘 1-14-12  
サンホワイト E103-13  
☎ 042-795-7361 (FAX: 必  
要に応じて186を頭に加える)  
議会 042-724-2171  
yoshidaben@gmail.com



## 学校統合の見直しを求める請願が続出

第1回定例会に市立小中学校の統廃合の見直しや、慎重な審議を求める請願が相次いで提出されました。以下の4件の請願ですが、無所属会派ではどの請願にも筆頭署名をしており、請願第1号には吉田つとむが筆頭で署名をしています。

○請願第1号(令和06年)成瀬地区小学校の統廃合計画を一旦止めて、地方自治の本来の姿として、学校のある地域に丁寧な説明をし、当事者の声を大切に、地域の了解をえながら、一緒に進めることを求める請願

○請願第3号(令和06年)本町田東小学校および本町田小学校の廃止と「本町田ひなた小学校」の開校に反対を求める請願

○請願第4号(令和06年)まちだの新たな学校づくり鶴川地区小中学校計画の開かれた議論を求める請願

○請願第5号(令和06年)まちだの新たな学校づくり推進計画において、子どもの意見表明の実施を求める請願

これらの請願審査で、親御さんや子どもたちが求めたことを真摯に受け止め、その立場の理解が広がるよう務めてまいります。

2月に視察した香川県東かがわ市立白鳥小中学校の教室 (30人の生徒数でした)



## 政務活動費地裁判決とメディア偏向報道

町田市議会の政務活動費使途に関する裁判に関する地裁判決がありました(2月29日)3月1日には新聞各紙にその結果が報道されていました。記事には、原告やその弁護士の弁が個々のケースとして様々に掲載される一方、被告の立場にある石坂市長は「判決を見ていないのでコメントできない」と書かれていたのみでした。他方で、議長のコメントが無いので、議会や議員の取材をせず、記事をまとめたものでしょう。私は一切問い合わせを受けていません。他のことでもこうしたメディアの議会無視を経験しており、果たして、マスメディアの公正さはどこにあるのかと思う次第です。

なお、この裁判では、市長に議会の会派に必要額の返還を求めることを求めた裁判となっており、実質的な当事者は、町田市議会会派まちだ市民クラブ、同自由民主党、同保守連合の3会派(25人)に、4年分で合計約1007万円に請求することを求めています。この種の裁判では、請求の対象とされる側に、裁判で「補助参加人」として実質的な発言、主張することを認めており、3会派もそれぞれに「補助参加人」となり、弁護士を立てています。なお、吉田勉は、独自に「補助参加人」となり、独自の弁護士を立てました。原告はそれを認めない主張をしましたが、裁判所は吉田の言い分を認める判断を双方に示し、裁判が進みました。(既報)

8日中に弁護士を通じて、判決文の写しを受け取り、吉田にかかわる部分に目を通しました。記事にあるような事例は、「通信費(電話代、ネット代等)の半額を返還せよ」とした部分以外には、違法として返還を求める内容は一切見当たりませんでした。当時の使途基準(上限設定を設ける)以下で支出したのですが、裁判所ではどの会派にも、支出の半額の返還を一律に求めていると他からも聞きました。なお、現在では町田市議会は、政務活動費の使途基準を見直し、通信費を半額に変更しています。

○支持政党なしの方々の代表=吉田つとむの基本理念は、良識ある保守主義です。

○吉田つとむは、「若者育成」をトップの政策に掲げています。

◎町田市内企業が開発した「水耕栽培メロンの世界一決定戦」を開催しよう!

●吉田つとむは令和4年2月実施の市議会議員選挙で、4期連続のトップ当選を果たしました



若い世代の育成に全力をささげる  
町田市議会議員(4期連続トップ当選)

# 吉田つとむ



ブログ 個人HP



メールは  
左記を読込  
して送信



好評インターンシップは、  
第53期生を受け入れ準備中

## 容器包装プラスチックの収集・資源化は

ようやく、町田市もプラ資源化の全域拡充

町田市は、これまで容器包装プラスチックの収集・資源化を南地区(JR横浜線の南側部分)のみで実施し、それ以外の地区では一向に進んでできませんでした。つまり、その他の地域(町田市の大半の地域)では、使用済の容器包装プラスチックを可燃ごみと一緒に燃やしてきたために、町田市のごみの資源化率が高まらず、多摩地域26市の中で下位に低迷してきました。

町田市はバイオエネルギーセンターを運用開始したことで、ごみのリサイクルや資源化が進んでいると思われていますが、実際には容器包装プラスチックの収集・資源化が遅れてきたことで温室効果ガスの削減という重要な市政の課題が改善されないのが実状でした。このことを何度も議会で取り上げてきました。その甲斐があって、2024年度予算に容器包装プラスチックの収集・資源化事業が盛り込まれ、2026年から事業開始がなされるものです。

ただし、その資源化施設(2カ所)はまだまだ建設に至らず、片方は設置場所も確定できないでいるものです。そのために、町田市の南地区の設置稼働する中間処理事業は市外の事業所に委託すると言うものです。本来、この種の事業は自区内処理(市内に中間処理施設を設置し、廃プラの圧縮梱包する)を行うべきことは言うまでもないことです。



## 地域交通機関の維持・拡充と公共の立場

現在町田市内では、玉川学園地域と成瀬ヶ丘・金森循環のコミュニティーバスが運行されており、行政が一定の支援を行っています。また、小山田桜台・多摩南部地域病院間に小型バスが運行されています。その他にも障がい者施設のバスが買い物バスとして一部に運行されている現状があります。



市民の方々の要望ではまだまだ多数のエリアや区間でそれらを導入してほしいという要望があります。相原駅西口でも相乗りタクシーの方法で地域交通の実験が行われたことがありました。あるいは成瀬地域等でも地域交通利用実験が試みられましたが、実際には利用者が一向に増えず、当初の見込みとは大きな相違が生じました。それを見ると、地域交通手段の導入を進めるリーダー的な方々が、実際には公共交通手段を利用するケースが少なく、需要を図るべき情報が足りていなかったのではないかと思います。今後の方向性としては、コミュニティーバスの近距離の乗車料金が200円というレベルではその利用が拡大せず、100-150円の範囲でないと通勤者を除いてなかなか拡充しないのではないかと思います。そうした視点からの再検討の時期だと思っています。

◎吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、2023年9月末までに105名が参加しました。

◎インターン生に政治活動の参加は一切求めず、あくまで社会勉強・見学のメニューです。